

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



果樹生産センター 信方浩志郎

着果管理

9月の摘果作業は、果実の肥大をある程度抑え、残した果実に養分が集まり品質の向上が見込めます。ただし、作業が遅れたり長期間にわたったりすると効果が少なくなり、養分を効率良く果実に集中させるために、後期摘果は光合成が盛んな期間に短期間で行いましょう。

《摘果時期》

果面が滑らかになった9月中旬から10月中旬まで、1樹を短期間で30〜35枚/1果の適正葉果比に近づけましょう。

《摘果をする果実》

極小玉果、極大玉果、内スソ果、キズ果、腰高果 等

マルチ被覆後の管理

マルチ被覆後は、強い水分ストレスがかかります。早朝に葉が巻いている場合は、過度な乾燥状態なので、マルチをめくり雨水を入れるか、かん水などを行ってください。

病害虫防除

ミカンハダニの被害は、収穫時の果実にも残るので、9月以降は発生に十分注意しましょう。また、温暖化でその他の病害虫の発生時期も伸びているので、園地を良く観察し防除してください。

・黒点病

ペンコゼブ水和剤 500倍 (30日〜4回)

・チャノキイロアザミウマ

スタークル顆粒水溶剤 2000倍 (前日〜3回)

・ミカンハダニ

ダニゲッターフロアブル 4000倍 (前日〜1回)

※黒点病は20〜27℃で発生し、多雨の時発生を助長します。防除後、30日経過するか累積降雨量が250mmになると薬剤の効果が弱まるので、黒点病の再防除を行ってください

※果皮障害を軽減するためにバイカルティ1000倍を混用散布します

※ミカンハダニの発生が見られる場合、ダニ剤を混用散布します